

しろくま通信



前々回より「お盆」について書いています。

目連（もくれん）ほどの人物を育て上げた立派な母親ですが、自分の子さえ良ければ他の子はどうなってもいいと言う考えが、餓鬼道（がきどう）に落ちる原因になっていると気づきます。母親だけを助けるのではなく、他の餓鬼たちも助けるために、たくさんの修行僧に手伝ってもらうことにしました。

昔、インドの修行僧たちは寺のような家を持たずさまよい歩く遊行をしていました。雨期だけはそれがままならないために、寺のようなところに集団生活して座禅などの修行をしています。

彼らが遊行に出る旧暦の 7 月 15 日に百実の飲食（ひゃくみのおんじき）を捧げ、餓鬼道に落ちた者たち皆が救えるように経を上げてもらい、母親は他の者たちと一緒に救われました。



前回のしろくま通信はホームページで観覧できます

<http://babayakkyoku.com/>

ホームページは「しろくま薬局」ですぐに検索！！

